

仙台沿岸エリア

仙台市 塩竈市 名取市 多賀城市
 岩沼市 亶理町 山元町 松島町
 七ヶ浜町 利府町



震災の惨禍を後世に伝える慰霊塔（岩沼市）

宮城県のほぼ中央に位置する仙台エリアのうち、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町で構成されています。

平成26年12月には、相馬-山元ICが開通し、鳥の海パーキングエリアが開設されたほか、平成27年3月には、首都圏と宮城を結ぶ常磐自動車道が全線開通し、交流人口の増加など、復興に向け大きく加速することが期待されています。

災害公営住宅については、多賀城市と亶理町で平成26年10月から入居が始まりました。このうち、多賀城市の桜木公営住宅は、津波浸水地域に立地することを考慮し、160戸の住戸を2階以上に配置し、津波避難ビルとしての機能を持たせています。

また、仙台市では、国際的な防災戦略について議論する国連防災世界会議が平成27年3月に開催され、東日本大震災の経験や教訓を世界へ発信する貴重な機会となりました。

仙台沿岸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	3,385人	10,530人
行方不明者	95人	1,255人
全壊	41,546棟	82,993棟
半壊	124,922棟	155,126棟

(平成27年1月31日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成27年1月
プレハブ住宅	14,429人	7,604人
民間賃貸借上住宅	37,108人	18,656人
計	51,537人	26,260人

(平成27年1月31日現在)

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月	平成27年2月
計画戸数	6,347戸	6,307戸
着手戸数	4,870戸	5,924戸
完了戸数	126戸	1,558戸

(平成27年2月28日現在)



美田園地区に建設中の災害公営住宅（名取市）



津波被害を受けた施設としては、県内で初めて現地再建を果たした長瀬小学校（亶理町）

仙台沿岸エリアの定点観測

七ヶ浜町菖蒲田浜周辺

津波によりコンテナなどが流れ着いた菖蒲田浜は、新しい防潮堤の工事などが進められています。



多賀城市桜木地区周辺

津波被災地域で、防災拠点機能や多世代が交流できる施設を併設する災害公営住宅が完成しました。



名取市関上漁港周辺

津波により甚大な被害を受けましたが、岸壁や漁港施設の復旧が進み、多くの船が着岸しています。



岩沼市海浜緑地周辺

津波被害を受けた海浜緑地を復旧し、自然環境に恵まれたレクリエーション活動の場として整備が進められています。



塩竈市マリゲート周辺

津波で船が陸に上がったマリゲート周辺は、県内で最も早く仮設商店街が営業を開始し、休日には多くの観光客が訪れます。



山元町新坂元駅周辺

津波による被災で運休中のJR常磐線を内陸に移設するため、新しい駅が建設される予定です。



2014年3月24日 月曜日

「グルック アウフ!! いつも共に」 ～ FC シャルケが来た !!

(岩沼市)



ドイツの名門サッカーチーム「FC シャルケ 04」のコーチ陣が来日し、被災地の子どもたちのためにサッカーの指導をしてくださいました。「子どもたちがすごく楽しそうだったし、我々も楽しみました」「宮城ががんばってくれるのを信じています」コーチ陣からの熱いメッセージです。

2014年4月9日 水曜日

求む! 環境作りの支援者

～巨理町仮設住宅の現状～ (巨理町)

「我々だけでは限界。専門家の知識と知恵が必要です」と巨理町公共ゾーン仮設住宅「ふれあいの会」の木村一行さん。仮設住宅を出て新たな住まいに巣立つ人が増えている裏側で、住民が減少していく仮設住宅のコミュニティをどう維持するのかが、新たな課題となっています。



2014年4月30日 水曜日

古文書は残された。大震災からの歴史資料の救出～慶長奥州地震津波

(仙台市)



「自衛隊が『体のレスキュー』ならば、古文書を残すこと、地域の歴史を守るということは『心のレスキュー』です」と東北大学災害科学研究所の蝦名裕一助教。人びとが書き残してきたさまざまな記録が、大震災を読み解くカギになると考えています。

2014年5月17日 土曜日

解体の危機から、歴史的建造物を守る

(塩竈市)



「保存活動ができているのは、名前が出ない志のある市民の皆さんと多くの協力者が支えてくださるから」とNPO みなとしほがまの副理事長・高橋幸三郎さん。解体の危機にある歴史的建造物を、自らの手で買い取り保存活用する取り組みが注目を集めています。

2014年5月31日 土曜日

“31世紀の子どもたち”に届け! 千年希望の丘植樹祭

(岩沼市)

何もかもが津波に流されてしまった場所に震災ガレキを集め築造した丘。そこに「千年先の未来を生きる子どもたちへ、いのちを守る森を届けよう」と約7,000人もの人たちが全国からやってきて、「緑の長城」のために1本1本植樹をしてくださいました。



2014年6月21日 土曜日

笑顔あふれる「みんなのマルシェ」、今年も盛況!

(多賀城市)



東日本大震災の2か月後、「多賀城を応援しよう」と始まったマルシェは今回で5回目。どの店先でも会話が弾み、笑顔であふれ、来場者も出店している方々も、若いボランティア「復興応援団」の皆さんも心からこのマルシェを楽しんでいました。

2014年7月31日 木曜日

高校生の私たちにできる事

～目黒星美学園中学高等学校の取り組み～ (巨理町、山元町)



「少しでも笑顔になっていただけるように被災者の方の“心に寄り添う”。それが高校生の私たちにできること」「ここで学んだことを多くの人に伝えることが、私たちの責任」。目黒星美学園中学高等学校(東京)の有志が、今年も「被災地ボランティア研修」に取り組みました。

2014年8月21日 木曜日

山元町の未来のために～ 「やまもと語りべの会」

(山元町)

山と海に囲まれた自然豊かな町、山元町。その記憶を後世に語り継ぎ、町の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいと活動しているのが「やまもと語りべの会」です。群馬県館林市立第一中学校の被災地体験学習に同行し、案内していただきました。



2014年8月30日 土曜日

記憶の中の住まいを訪ねて

(仙台市)



「床下に池があったのですか？ 贅沢な設計ですねえ…！」被災した方からの聞き取りを手掛かりに、震災で失われた住まいを「見取り図」で復元する試みが進められています。宮城県建築士会女性部会の「記憶の中の住まい」プロジェクトです。

2014年9月11日 木曜日

失われた「闇市」。そして「復興市場」へ

(塩竈市)

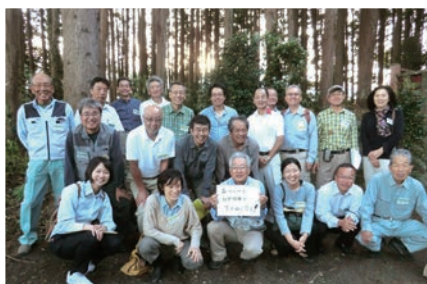


「場所さえあれば、まだまだできる。復興のためにやらなければいけないことが、まだいっぱいあるからね。津波で流された塩釜海岸中央鮮魚市場（通称「闇市」）から仮設の「しおがま・みなと復興市場」に移った鮮魚商・佐藤秀治さんの言葉です。

2014年9月26日 金曜日

鎮守の森を「環境教育防災林」に

(利府町、七ヶ浜町)



たくさん子どもたちの命を奪った東日本大震災を機に、NPO法人宮城県森林インストラクター協会では「環境教育防災林」の活用を提唱しています。この

日、七ヶ浜町の諏訪神社・鎮守の森で「環境教育防災林」の見学会が開かれました。

2014年10月5日 日曜日

優しさと強さのメッセージ

『Songs from Singapore to Tohoku2014』@ゆりあげ港朝市

(名取市)



「音楽のチカラで、被災地の皆さんを元気づけたい」。シンガポール国内でさまざまな被災地支援活動を行っているシンガーソングライターの Sachiyo（サチヨ）さんが、ゆりあげ港朝市のステージで歌いました。

2014年12月9日 火曜日

88年間ありがとう！ おらほの水族館

(松島町)



約1メートルの津波に襲われた松島水族館。全国各地の水族館からの支援のおかげで約1か月半で営業を再開しました。しかし、老朽化等により、

多くの方々に元気をわけてくれた水族館は、平成27年5月に、88年の長い歴史に幕をとじます。

2015年2月4日 水曜日

日本三景「松島」から「世界の松島湾」へ

(松島町)



松島湾に面した松島町は、震災で甚大な被害を受けました。平成25年、この松島湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟。5月に予定されているJR仙石線の全線開通を控えて観光誘致につなげるための新たな取り組みが進み、復興への歩みは着実に進んでいます。

トピックス

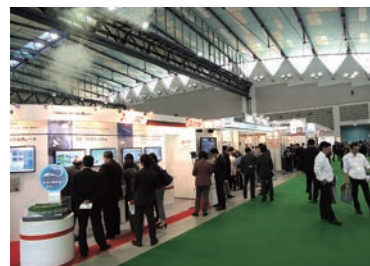
第3回国連防災世界会議が仙台で開催

(仙台市)



東北防災・復興パビリオン（せんだいメディアテーク）東日本大震災の概要のほか、被災自治体のそれぞれの取り組み事例を発信しました。

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議で、10年に一度開催されています。過去2回は、横浜と神戸で開催され、今回は平成27年3月に仙台で開催されました。会議は、仙台国際センターで開催され、各国の首脳や閣僚、認証NGOの代表らが参加したほか、期間中に仙台中心部や夢メッセなどで、一般の方を対象とした講演会や防災に関する展示会なども開催されました。



防災産業展 in 仙台（夢メッセみやぎ）我が国最先端の防災技術・製品を紹介したほか、出展企業等によるシンポジウムが開催されました。